

しんち九条の会だより

第5号

2007/03/23

感動の名作

映画「日本の青空」

完成披露試写会

去る3月17日(土)小高区の浮船会館で上記の映画『日本の青空』の試写会が行われました。

この試写会には、監督の大澤豊氏も来賓として出席されており、挨拶で次のように述べていました。

「この映画は、例えば『鈴木安蔵物語』などとした方が面白く出来たかもしれませんが、日本国憲法を改めようとする勢力が大変強くなってきた今、一人でも多くの国民が現憲法の素晴らしさとそれを守ることの大切さを知ってもらうため、『憲法』を真正面から取り上げたかったのです。この映画が全国津々浦々で上映され、多くの若者たちに憲法問題への関心を高めることができれば最高です。たとえ、議会で改憲勢力がどんなに多くても、護憲の世論が高まれば、憲法改悪は阻止できます。」と結んでいました。

ストーリーは、「月刊アトラス」の派遣社員である沙也可が、「特集・日本国憲法の原点を問う」という企画に参加するチャンスを与えられ、母の助言で鈴木安蔵(旧小高町出身の憲法学者)という人の名を知りました。安蔵の娘の子と潤子への取材に成功した沙也可は、二人の証言から戦時下での在野の憲法学者としての安蔵の苦勞と崇高さを知りました。

取材を進めていくうちに、鈴木安蔵は、高野岩三郎、森戸辰男、室伏高信、岩淵辰雄、杉森孝次郎らと、民間の「憲法研究会」を結成し、メンバー唯一の憲法学者として



重要な役割を果たしたこと、更に「憲法研究会」が本当に民主的な憲法にしようとする議論を重ね作成した憲法草案がGHQ(連合国軍総司令部)に高く評価され、日本政府に提示されたGHQ案に多大の影響を与えたことを知ったのでした。

沙也可は、この取材を通して、鈴木安蔵という人間の偉大さを知ると同時に、今まであまり関心のなかった「日本国憲法」を守ることの大切さを実感していくのでした。

日本国憲法第9条

①日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

②前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力はこれを保持しない。国の交戦権はこれを認めない。

しんち九条の会

初の懇親会

去る2月25日(日)、午後6時から「晴海荘」で、しんち九条の会・呼びかけ人による初の懇親会を開きました。参加者は14名と少なかったのですが、大いに盛り上がり楽しく過ごすことが出来ました。

席上、日本国憲法を守ることの大切さを改めて確認すると共に、左記の「日本の青空」をぜひ新地でも上映しようということになり、5月下旬を予定しました。



た。

教員の免許更新

どんな効果が期待できるの？

教育再生を掲げる安倍内閣が「ダメ教師の排除」のため、教員免許を十年更新にする教員免許法改正案が今国会に提出されるが、一体どんな効果が期待できるのか、はなはだ疑問です。

いじめ、不登校、学力低下、子供の自殺、その他ことごとく学校の責任とされ、批判の対象となっている現場の先生方。その上今度は十年ごとの免許更新です。優秀な教員の確保とっていますが、こんなにも追い詰めれば、逆に教員になる人が居なくなるのではと心配です。社会から常に厳しい目で見られ、過酷な勤務体制、せっかく就職しても十年後は職を失うかもしれないとなれば、あまり魅力のある職業と言えません。

ある中学校の先生は、次のように言っていました。「最近の学校は明るさがどんどん無くなってきています。自由にものが言えなくなったように思います。子どもと一緒に遊んだり、相談にのってやる時間が無くなってきています。先生方どうしても、あまり話をしなくなりました。教員になったころは、教師という職業に大きな夢が持てたのに、最近の若い先生方は夢が持てるんでしょうかねえ。」

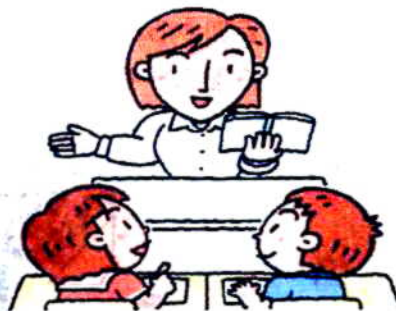
たしかに、こんな状態では夢を持ってのびのびとした教育が出来るはずがありません。教員をいじめれば、教育問題が解決するとでも思っているのでしょうか。

しかも十年に一度の免許の

更新には約30時間程度の講習を予定しているようだが、講習を受けている間の、その先生の授業は誰がするのでしょうか。慢性的に教員不足になっている教育現場にこれ以上の負担をかける事は決して望ましいことではありません。

また教員免許の更新制を導入している国は、先進主要国ではアメリカ合衆国だけということですが、これもまたアメリカの真似なのではないでしょうか。

教育現場を知らない人達が教育行政に携わっているからとはいえ、現場の悲鳴にも似た声を聞かないで、机上だけで考え出された教育政策は、ためにならないだけでなく、害になることを知ってもらいたいと思います。本当に子どものためになる教育が望まれます。



ニートの増加

ニートとよばれる人達が、今年々増加しているといわれています。

働かない(あるいは働けない)若者が多くなっているということは、どう考えても社会的にも大きな損失だと思います。



では、なぜ最近このような若者が多くなったのでしょうか。

経済構造が変化したことによって、働き口が減ってきたこと、会社の要求が厳しくなってきたこと、本人に甘えや精神発達の遅れがあることなど、さまざまな理由があげられていますが、働きたくないというよりは、働くことへの不安が強いのではないかと考えられます。

家庭の養育態度にも問題があるのではないかとわれ、特に過保護、過干渉、あるいは利己主義的な考えの中で育てられたことも関係があるのではないかと考えられています。

家庭の日常生活の中で、基本的な生活習慣やがまんする心が子どもの時からきちんと身につけていれば、少しはニートと呼ばれる人達も減っていくのではないのでしょうか。